

令和5年度 泥亀地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当地域は人々が多く行きかう駅前の商店街や住宅地、大規模マンション等があり、多種多様な世代、世帯構成が共存しています。また、歴史的・文化的にも緒ある場所です。3つの連合町内会・地区社会福祉協議会があり活動も活発ですが、コロナ禍での活動継続や中心的役割を担う後継者育成が課題となっています。また、閉じこもりの方、認知症の方、ヤングケアラー、ダブルケアラーなど支援を必要とする方の早期発見も課題です。それらを解決していくには、担当エリアの各地域の連携機関や関連団体と情報共有できる関係構築が重要であり、積極的に向かい合いネットワークを大切にしていきます。そして、区域計画・地区別計画の推進に向け、地域支援チームの一員として地域で生まれるインフォーマルサービスや介護予防への取組等を支援・周知していきます。これからも、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域の特性にあわせた地域福祉活動を行います。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	エリア内にできた新設の福祉施設の協力を仰ぎ、地域住民の身近な通いの場づくりを実施します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域課題を話し合う場としての「つながりの輪 この指と～まれ」を改めて再開して、地域のニーズや課題に合わせて、課題解決にむけた支援を6職種協同で推進していく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域住民への出前講座や認知症サポーター養成講座を多世代にむけて開催していきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	「体験！男性アレコレ講座」から発足した講座開催のグループが、コロナ禍においても自主的に興味ある活動に取り組み、学んでいけるように支援していきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地域支援を行う中で、担い手や支援者の後継者不足がある。現在の地域支援者に負担が重ならないように、地域活動支援者の支援を行うと同時に、担い手づくりを共に行う。また多種多様な見守りや地域活動支援を他機関で関わることのできるネットワークを構築していく。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

令和5年3月から包括圏域の変更に伴う、地域支援、個別相談においては、しっかりと引継ぎを行うことができた。また担当3地区ともに2箇所のケアプラザに係ることになり、事業運営の際にも協働できるものは一緒に行うことで、地域の負担軽減にも努めた。6職種が事業運営をするにあたり、しっかりと目的を持ち、また目指すべき姿も参加者等とも共有していくことができ、事業の在り方なども再度検討することができている。新たな事業においても、6職種会議や職員会議でしっかりと共有し、多職種が意見を出し合うことで、地域からの問合せに、誰もが進捗状況を把握し、対応できる体制が作れている。特に令和5年度は、支援者の支援をどのように進めていくかをしっかりと把握するために、アウトリーチを積極的に展開した。アウトリーチするために事業所内の人員配置も再構築し、地域活動や個別相談訪問に向き、支援者の困りごとの把握を行い、今後のネットワーク構築に向けた準備ができた。

区からのコメント

包括圏域変更による他ケアプラザへの丁寧な引継ぎを行っていただきました。圏域の地区を複数ケアプラザで担当することとなり、これまで以上に「圏域」を越え「地区」を意識したネットワークづくりへの取組をしていただき、真に地域の方に寄り添った支援をしていただいています。また、地域のサロンや行事への参加の際に「アウトリーチ」の視点を意識して取り組まれたことで、地域との信頼関係の構築のみならず、サロン等活動の目的を把握し、支援者支援の必要性(ニーズ)の把握を行っていただきました。日ごろからの丁寧な地区状況の把握と6職種の良好な連携により、地域の力を引き出せる支援・取組が展開されています。次年度も引き続き、地域を元気にする福祉保健の拠点として取組を推進していただきますようお願いいたします。